

令和3年度入学式校長式辞(令和3年4月8日)

春爛漫の今日の佳き日に、保護者の皆様の御臨席を賜り、岡山県立岡山朝日高等学校令和三年度入学式が挙行出来ますことを、心より感謝申し上げます。

ただいま、360名の皆さんに入学を許可いたしました。

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。教職員、そして、皆さんの先輩となる在校生が、皆さんの晴れの入学を祝福し、心から歓迎いたします。また、コロナウイルス感染症対策のため、来賓の方をはじめ、この式に参加することができなかった皆様の祝福の気持ちが、この空間に満ち満ちていると感じます。

皆さんは自らの意思で本校を志願し、本校独自の入試問題を突破して本日、めでたく岡山県立岡山朝日高等学校の生徒となりました。今、その喜びをしっかりと噛み締めていることと思います。

本校は、岡山藩主池田光政公が創設した藩校の流れをくみ、1874(明治7)年6月、岡山城西ノ丸跡に、教員養成の目的で温知学校が開校され、8月には教員志望ではない生徒も受け入れることになりました。本県における中等教育の黎明となったこの年をもって、創立の年としており、今年が創立147年目となります。

この間、岡山県第一岡山中学校いわゆる「一中」や岡山県立岡山第一高等学校など幾多の変遷を経て、岡山県立岡山朝日高等学校となり、昭和28年には、旧制第六高等学校の跡地に立地し、美しい自然空間と知的教養を志向する精神空間を引き継ぎ現在に至る本校の姿が整いました。

この本校に入学するに当たり、皆さんに三つのことを望みます。

一つは、本校の教育方針である、「自主自律」と「自重互敬」の精神をもち、リーダーシップを発揮して新たな社会を牽引し、未来に貢献する人間になって欲しいということです。「自主自律」とは、なすべきことを自ら考え、自らを厳しく律し、それに基づく自由を尊重する態度を育成することです。「自重互敬」とは、自らを大切にし、教養を高め、品位を保って、他人を敬愛することのできる人間になることの大切さを説いたものです。これらの精神は、高い志をもつことによってより一層磨かれ、高まっていきます。

朝日は昇らなくてはなりません。そして、その輝きは一人ひとり異なりつつも、自分の将来とともに社会の将来にも責任を持つとすると高い志をもつべきです。このことが、朝日の伝統なのです。

次に、大きな目的に近づくための目標を立て、努力を厭わず向上心を持って取り組み続けることです。本校の校章は桜です。大きな葉が一年生、そこから勢いよく伸びる

蕾が二年生、そして三年生で花が開きます。このように段階的に自分が何をどこまでどのように達成すべきなのかを、一人ひとりが自分で、わかり易く掲げるのです。このとき大切なことは、常識で考えたらまともとは思えないくらいの高い目標にすることです。中学校までの延長線上の発想から自分自身を開放するのです。

最後に、「自分自身を大切にすること」です。皆さん一人ひとりが、保護者の皆様が、教職員が、今ここに共にいること自体が奇跡であり、かけがえのない大切なことです。自分の可能性を強く、強く認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と「支え合い」、「助け合う」存在であってほしいと思います。

これからの三年間には、自由であるがゆえに、楽しいこと、嬉しいことがあると思います。しかし、むしろ自由であるがゆえに、厳しい覚悟と不断の努力が必要であり、結果についても自らに責任を課すことが求められます。その様な時、大学の向こう側を意識した「高い志」と「共に高めあう友人」の存在があれば、耐えることができます。頑張ることができます。

今日から、千人を超える多才・異才の多様性に富む朝日高校生の中で、皆さん一人ひとりが、一人ひとりの在り様で、人間力も学力も大きく成長していくことを期待します。

さて、御臨席の保護者の皆様、お子様の御入学、心からお祝い申し上げます。本日より、お子様を本校でお預かりいたしました上は、すべての教職員が心を一つにして、自由であるが故の厳しさとともに、思いやりのある行動や温かく受容的な学校風土の形成を大切にしつつ、お子様一人ひとりの成長、進路の達成、自己実現に向けて、誠心誠意、最大限の努力を払ってまいり所存です。保護者の皆様には、社会に出てからお子様一人ひとりで様々なことに対処できるよう、しっかりと見守っていただきますとともに、本校の教育に対しまして御支援・御協力をいただきますようお願い申し上げます、式辞といたします。

(県立岡山朝日高等学校 校長 竹田義宣)